

I. 「学生による授業評価 2023」の概要

I-1. 目的

本学では、授業に関する学生の理解の状況や満足感・充実感等を把握することによって、教育内容や教授方法、講義資料及び学習支援システム・施設等の改善に資することを目的とし、2005年度より自己点検・評価の一環として学生による授業評価を導入した。

本年度は、第19回目となり、例年の通り2023年度に新規開設した科目を評価の対象とした。

以下、その量的分析結果及び自由記述の内容を報告する。

学生による授業評価は、個々の科目に対する学習者の視点からの具体的で詳細なフィードバックを得ることを企図して実施される調査である。その主な目的は、次の通りである。

- (1) 個別授業科目の改善支援・・・個々の科目を受講者がどのように学習し、どう評価しているかを項目ごとに把握することにより、次の科目改訂等に際して改善すべき点の発見を容易にするような資料を提供する。
- (2) カリキュラム全体の改善支援・・・コースまたは領域、プログラム（群）における、より効果的なカリキュラム構成や水準のバランス等を検討する上での有効な資料を提供する。
- (3) 認証評価に関わる資料提供・・・大学に対して社会的に強く求められている定期的な認証評価に際しての重要な資料を提供する。

しかし、一般の大学とは異なり、放送大学においては授業評価の結果をそうした目的にストレートに用いることが必ずしも容易ではない。そこには、次のような放送大学に固有のいくつかの条件と特殊事情があり、結果の利用には一定の留保が求められることになるからである。

第1に、放送大学では、収録された放送授業を4年間継続して放送する原則になっていることである。そのため、たとえ授業評価で改善点が明確に示唆されたとしても、即座にそれを改善する（つまり、評価の次年度に改訂版を収録する）ことが非常に難しいのである。

第2に、放送大学の主任講師は半数程度が客員教員であり、その場合、必ずしも科目の改訂を同一教員がするとは限らないことである。主任講師が交代すると、科目の内容や構成が変わってしまう場合があるため、前科目に対する評価は往々にして参考程度の意味しか持たないことになるのである。

第3に、放送大学は公開大学であり学部には入学試験がないこともあって、他の一般大学に比して学生集団は多様で流動的であり、そこに一定のまとまった特性を求めることは難しい。授業評価で得られた結果も他の大学よりはるかに分散が大きいことが容易に予想される。したがって、たとえ結果を得たとしても、どの層の学生をターゲットとして授業改善をしていったらよいのか、必ずしも明確ではないのである。事実、過去の数次にわたる授業調査で毎回見られることであるが、例えば、「放送授業と印刷教材はできるだけ同一の内容に」と「放送授業と印刷教材の内容が同じでは別の教材である意味がない」とは、常に同じくらい多く書かれる意見である。もちろん、そうした意見の平均や中間点を採用してもあまり意味がないことは言うまでもない。

そして、第4に、放送大学は教員の5年任期制を採っており、再任のためには5年ごとの内部審査の通過が必要とされることである。そのため、個々の教員の評価にストレートに結びつきがちな授業評価の実施に対しては、当初より慎重論も決して少なくなかった。したがって、上述した第3の特性を持つ授業評価に関しては、授業改善あるいはカリキュラム改善のためにのみ結果を用いる、という確たる合意が必要とされるのである。

I-2. 構成と内容

本学生による授業評価調査（放送授業）は、大きく分けて3つの部分からなっている。

第1は、当該科目への取組姿勢、放送授業、印刷教材、単位認定試験等について4段階で評価する評定尺度質問である。その内容は、①当該科目にどれだけ熱心に取り組んだかを示す回答者自身の自己評価と、②授業の難易度・分量、放送授業、印刷教材、通信指導・単位認定試験および全体的に見た授業評価の2つに分かれる。

第2は、当該科目のよかった点、改善すべきだと感じた点、本学の教育システム全般への意見に関する質問であり、自由に記述してもらった形態を採った。

そして、第3は回答者の属性に関する質問である。

実際に使用した調査票については14,15,16,17頁を参照されたい。

I-3. 方法と期間

評価の対象としたのは、2023年度第1学期に本学で開講していた放送授業のうち、本年度に開設した科目及び前年度第2学期に開設した科目（開講1年目の科目）、学部47科目（オンライン授業8科目を除く）、大学院3科目（オンライン授業4科目を除く）、計50科目である（表1-1参照）。このような選定システムにすることで、開設後4年間継続して放送することとされている全科目が、開講期間中に必ず1回授業評価の対象とされることになる。

表1-1 コース・プログラム別の評価対象科目数および有効回答数（オンライン授業を除く）

【学部】

【大学院】

コース	科目数		有効回答	
	2023年度		2023年度	
	全開設	評価対象	人数	構成比
基盤科目(一般科目)	1	1	931	19%
基盤科目(外国語)	4	4	171	4%
生活と福祉	9	9	1290	26%
心理と教育	7	7	816	17%
社会と産業	10	10	518	11%
人間と文化	7	7	633	13%
情報	4	4	233	5%
自然と環境	4	4	175	4%
夏季集中科目	1	1	114	2%
全体	47	47	4881	100%

コース	科目数		有効回答	
	2023年度		2023年度	
	全開設	評価対象	人数	構成比
臨床心理学	2	2	72	80%
情報学	1	1	18	20%
全体	3	3	90	100%

2018年度より、教務情報システム（システムWAKABA）のアンケート機能を用いたオンライン調査とし、評価対象科目を受講した学部 31,242 名、大学院 586 名、計 31,828 名（いずれも延べ人数）に対し、学内連絡及びメールにて周知を行い、実施した。

調査期間は第1学期単位認定試験終了後の7月25日から9月30日までの68日間とし、有効回答数は学部 4,881 人、大学院 90 人、計 4,971 人であった。無記名調査ながら、有効回答率は学部 18.9%、大学院 26.2%、全体で 19.0%と、2022年度の有効回答率（2022年度新規開設科目学部 18.5%、大学院 31.5%、全体 18.9%）と比較すると学部は同水準、大学院は有効回答率が減少していた。

※オンライン授業を除く

表1-2 調査対象者数および有効回答率

	2023年新規開設科目			2022年新規開設科目			2021年新規開設科目		
	対象者数	有効回答者数	有効回答率	対象者数	有効回答者数	有効回答率	対象者数	有効回答者数	有効回答率
学部	25824	4881	18.9%	33837	6275	18.5%	42584	7783	18.3%
大学院	343	90	26.2%	1053	332	31.5%	1501	412	27.4%
計	26167	4971	19.0%	34890	6607	18.9%	44085	8195	18.6%

I-4. 時系列分析

報告書の一部に過去2年度の調査との比較を掲載した。

本調査は原則として開講1年目の科目を対象とするため、調査対象科目は年度ごとに異なっているという事情がある。本来ならば、時系列分析は同一の科目同士あるいは同一科目から構成されるコース（プログラム）を比較対象としてこそ、その意義が発揮されるであろう。しかし、対象科目が異なるとはいえ、年度ごとに開設された放送授業の全体的な傾向及びその方向性を見る上では参考になると思われる。

I-5. 回答者の特性

(1) 回答者の属性分布と母集団との比較

※ pt:ポイント

(次頁表1-3)は、回答者の属性分布と母集団(全受講登録者)の属性分布を比較したものである。両者を比較して、回答者の属性分布と母集団の属性分布間に乖離がないか確認を行う。

学部では、男性は+0pt、女性は0ptで母集団との差はなかった。

年齢階層別では19歳以下~40歳代までがマイナスで、20歳代(-9.8pt)と30歳代(-5.9pt)が、母集団との差が大きかった。

反対に母集団より高かったのは50歳代~70歳以上で、50歳代(+7.7pt)と60歳代(+8.5pt)が特に差が開いていた。

学生種別では全科履修生が+0.4pt、選科履修生が-0.7ptと母集団との乖離が大きかった。

一方、大学院の性別では男性が+2.8pt、女性は-2.6ptで、学母集団との差が大きかった。

年齢階層別では、20歳代~40歳代までと70歳以上が母集団より低くなっていた。

学生種別では修士全科生は母集団より21.6pt高く、修士選科生は逆に-19.7pt低かった。

表 1 - 3 回答者の属性分布

【学部】

		2023年新規開設科目			2022年新規開設科目			2021年新規開設科目		
		回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差
性別	男性	43.6%	43.6%	0.0pt	45.0%	44.7%	0.3pt	39.2%	38.3%	0.9pt
	女性	56.4%	56.4%	0.0pt	55.0%	55.3%	-0.3pt	60.8%	61.7%	-0.9pt
年齢階層別	19歳以下	1.2%	1.9%	-0.7pt	2.2%	3.3%	-1.1pt	1.2%	1.3%	-0.1pt
	20～29歳	8.2%	18.0%	-9.8pt	9.2%	20.1%	-10.9pt	7.7%	16.0%	-8.3pt
	30～39歳	8.9%	14.8%	-5.9pt	11.3%	16.2%	-4.9pt	8.8%	14.4%	-5.6pt
	40～49歳	18.8%	20.1%	-1.3pt	22.6%	22.2%	0.4pt	21.9%	23.1%	-1.2pt
	50～59歳	29.5%	21.8%	7.7pt	26.4%	19.3%	7.1pt	30.8%	23.8%	7.0pt
	60～69歳	21.9%	13.4%	8.5pt	18.5%	11.4%	7.1pt	21.3%	13.5%	7.8pt
	70歳以上	11.5%	10.0%	1.5pt	9.8%	7.4%	2.4pt	8.2%	8.0%	0.2pt
学生種別	全科履修生	76.3%	75.9%	0.4pt	71.0%	69.0%	2.0pt	81.3%	79.0%	2.3pt
	選科履修生	16.8%	17.5%	-0.7pt	17.7%	20.1%	-2.4pt	14.8%	17.5%	-2.7pt
	科目履修生	6.9%	6.6%	0.3pt	11.2%	10.9%	0.3pt	3.9%	3.4%	0.5pt
人数 (N)		4881	-	-	6275	-	-	7783	-	-

※回答者については、無回答があるため、合計は100%になりません。

【大学院】

		2023年新規開設科目			2022年新規開設科目			2021年新規開設科目		
		回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差
性別	男性	53.5%	50.7%	2.8pt	62.7%	63.2%	-0.5pt	50.7%	50.0%	0.7pt
	女性	46.7%	49.3%	-2.6pt	37.3%	36.8%	0.5pt	49.3%	50.0%	-0.7pt
年齢階層別	19歳以下	0.0%	0.0%	0.0pt	0.0%	0.0%	0.0pt	0.0%	0.0%	0.0pt
	20～29歳	1.1%	5.0%	-3.9pt	4.5%	5.5%	-1.0pt	1.5%	4.5%	-3.0pt
	30～39歳	7.8%	11.7%	-3.9pt	6.0%	10.8%	-4.8pt	10.4%	11.5%	-1.1pt
	40～49歳	23.3%	25.1%	-1.8pt	15.4%	18.8%	-3.4pt	15.8%	21.0%	-5.2pt
	50～59歳	33.3%	31.5%	1.8pt	29.8%	25.3%	4.5pt	38.6%	29.1%	9.5pt
	60～69歳	32.2%	22.7%	9.5pt	32.8%	25.8%	7.0pt	23.8%	21.9%	1.9pt
	70歳以上	2.2%	4.1%	-1.9pt	11.4%	13.7%	-2.3pt	10.0%	12.0%	-2.0pt
学生種別	修士全科生	34.4%	12.8%	21.6pt	31.8%	17.1%	14.7pt	33.5%	14.1%	19.4pt
	修士選科生	61.1%	80.8%	-19.7pt	59.9%	73.8%	-13.9pt	58.3%	77.4%	-19.1pt
	修士科目生	4.4%	6.4%	-2.0pt	8.1%	9.1%	-1.0pt	8.3%	8.5%	-0.2pt
人数 (N)		90	-	-	332	-	-	412	-	-

※回答者については、無回答があるため、合計は100%になりません。

以下、今回の評価結果を分析する上で、回答者の特性からみて留意すべき点を明らかにするために、回答者の属性についてさらに見ていくことにする。

(2) 年齢階層別の分布 (2023年新規開設科目)

年齢階層別に本年度 (2023年新規開設科目) の回答者の分布を見ると (図 1 - 1)、学部では50歳代が最

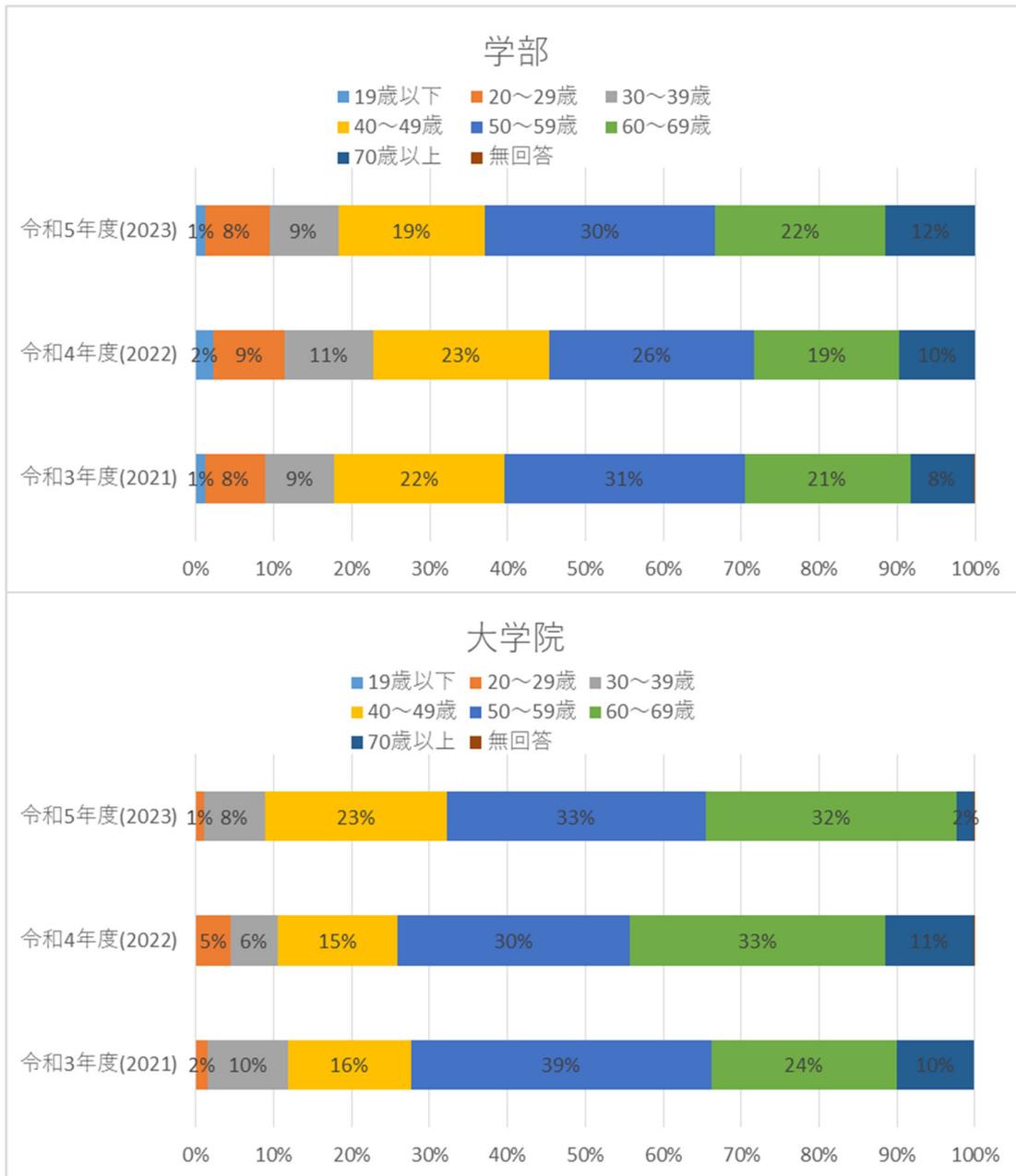
も多く 30%、次いで 60 歳代 22%、40 歳代が 19%で、40 歳代から 60 歳代で約 7 割を占めていた。

昨年度と比べると、50 歳代から 70 歳以上が増え、19 歳代から 40 歳代が減っていた。

大学院は学部とは異なり、50 歳代が最も多く 33%で、40 歳代から 60 歳代の構成比が高く、全体の約 9 割近くに達していた。

昨年度との比較では 20 歳代と 70 歳以上が減少し、主に 40 歳代が増加していた。

図 1 - 1 年齢階層別回答者



(3) 性別の傾向（2023年新規開設科目）

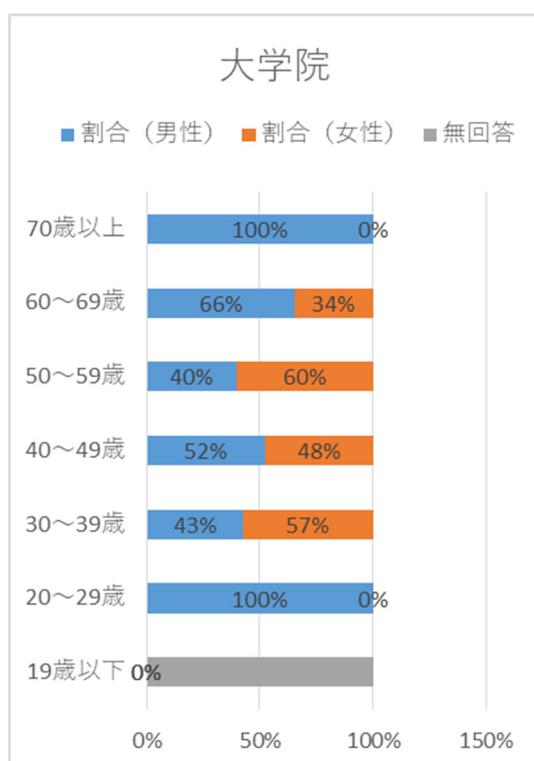
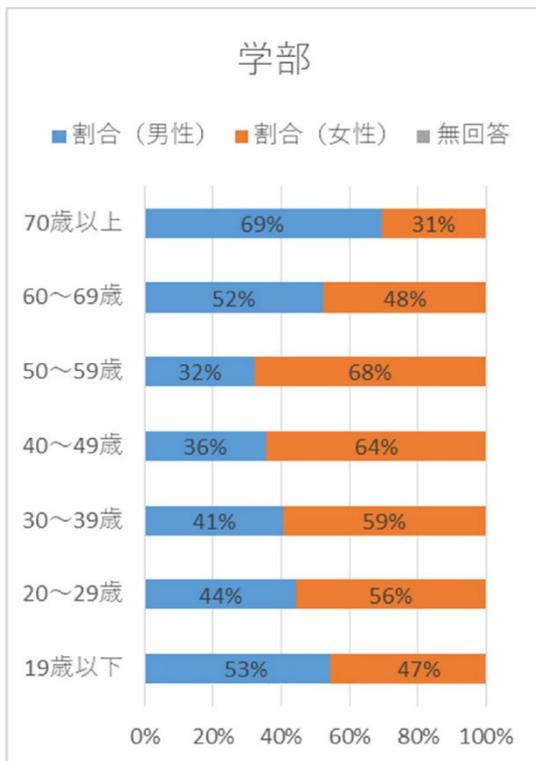
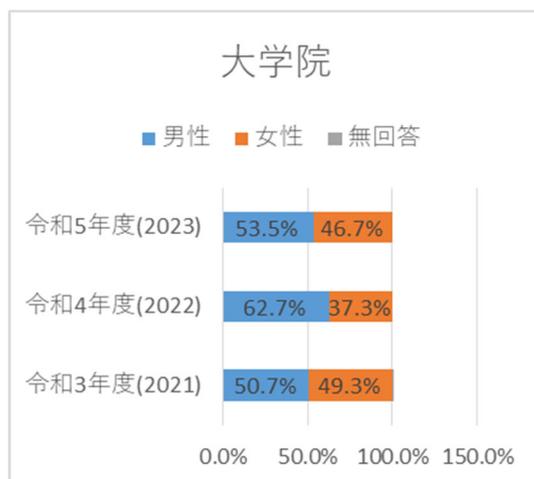
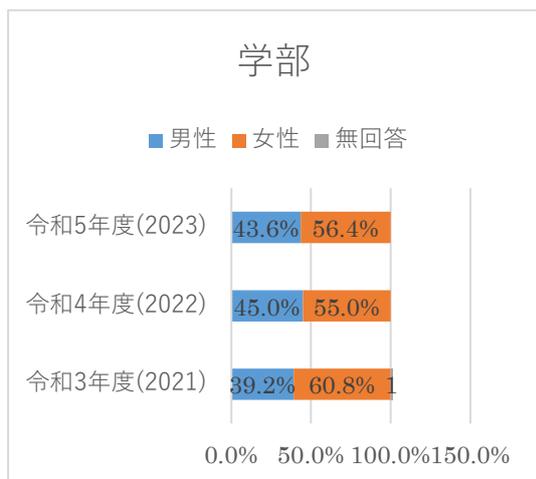
学部について、男女別全体では（図1-2）、「男性」は43.6%、「女性」は56.4%となり、今回は女性が増加していた。

年代毎の男女の構成を見ると、20歳代から50歳代までは女性の割合が多く、逆に60歳代以上から男性が多くなり、70歳以上は男性が約7割近くを占めていた。

大学院では、「男性」53.5%、「女性」46.7%で、昨年度より男性が9ポイント減少した。

年代別では70歳以上で、男性の割合が10割を占めていた。

図1-2 性別回答者



(4) 職業別分布（2023年新規開設科目）

学部在籍者の職業は（図1-3）、「会社員」が最も多く24%、次いで「無職」（19%）「パート・アルバイト」（14%）が続いている。

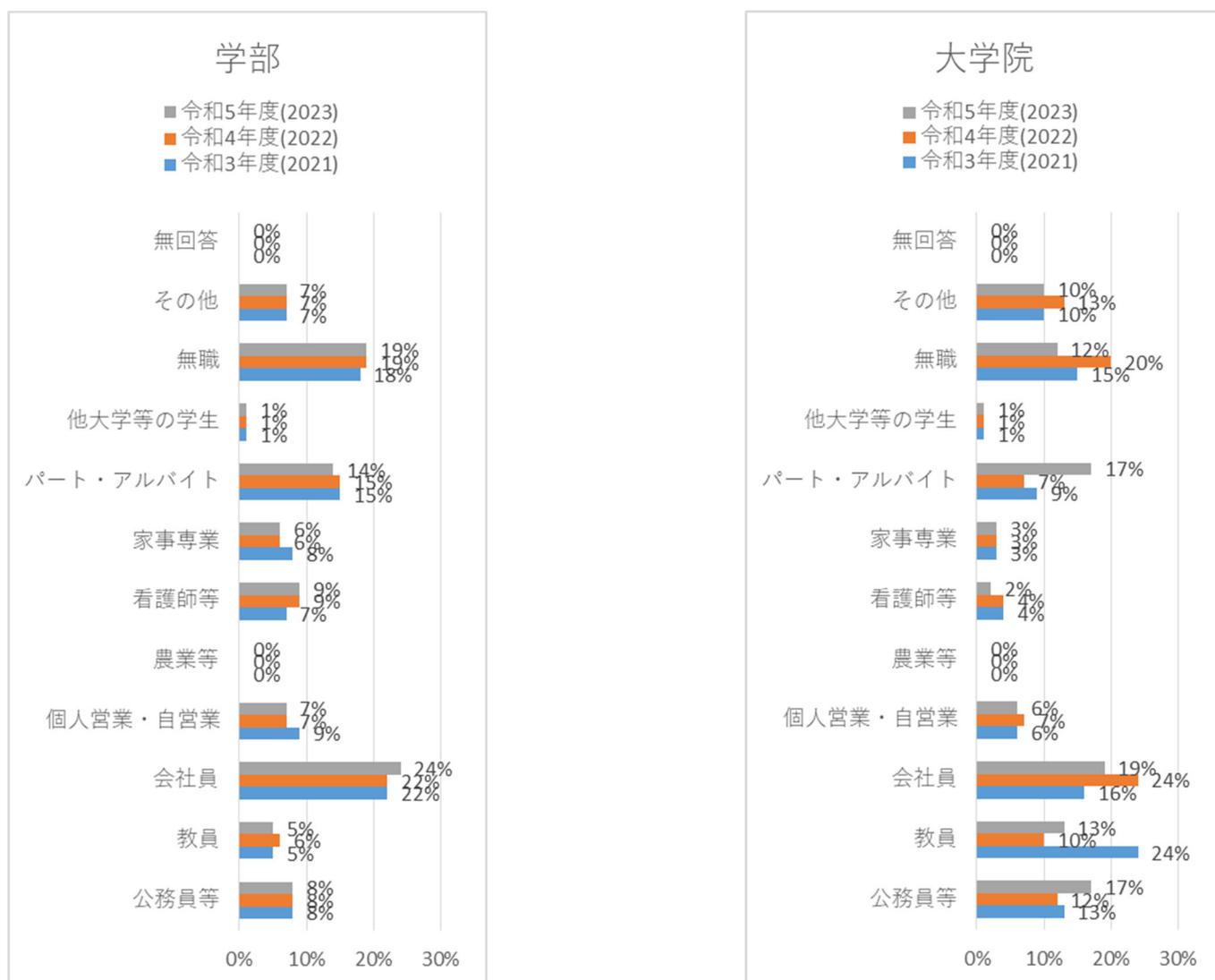
時系列で見ると、大きな変化は見られないが、昨年度と比べ、「看護師等(9%)」が横ばい、「個人営業・自営業(7%)」「家事専業（6%）」が横ばいであった。

大学院では「会社員」が19%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」と「公務員等（17%)」、「教員（13%)」が続いていた。

時系列で見ると、「パート・アルバイト」「公務員」「教員」が増加している一方、「無職」、「その他」については、減少傾向が続いている。

なお、ここでの年齢別、性別、職業別の回答者の割合は、調査対象年度の科目による相違も影響しているので、放送大学の全学生の構成や時系列変化とは必ずしも同じではないことに注意されたい。

図1-3回答者の職業



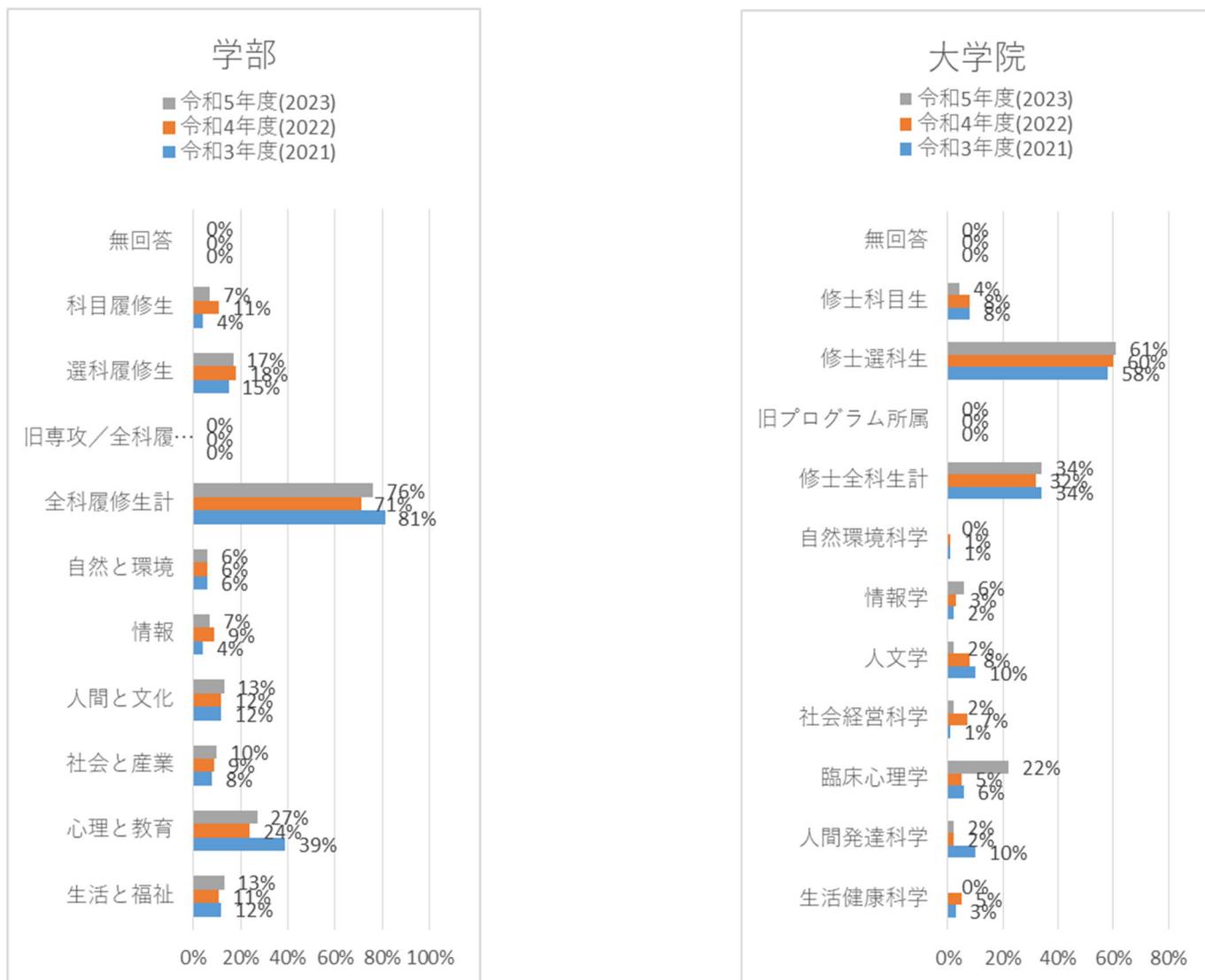
(5) 所属コース（プログラム）別分布（2023年新規開設科目）

所属コース（プログラム）別の分布では（図1-4）、学部は全科履修生（新コース）が76%を占めているが、昨年度より5ポイント増加していた。その中では、「情報（7%）」が昨年度より2ポイント減少していた。

大学院では修士選科生が61%を占めており、修士全科生（新プログラム）が34%、修士科目生が4%であった。

修士全科生の所属プログラムでは「臨床心理学（22%）」と「情報学（6%）」が上位であった。

図1-4 回答者の所属コース（プログラム）



I-6. 評価結果の提供と公表

I-6-1. 評価結果の提供

本授業評価は、先にも掲げたように「個別授業科目の改善支援」「カリキュラム全体の改善支援」「認証評価に関わる資料提供」という3つの大きな目的のもとに実施開始年度当初に企画された。また、当時の授業評価小委員会（以下「小委員会」という。）での検討の結果、得られたデータは次のように資料提供されることとなった。

- (1) 当該科目を担当した主任講師への提供・・・担当科目の詳細な評価結果を主任講師に提供する。担当科目の評価結果には、担当科目と比較可能な全科目平均等及び自由記述部分が含まれる。
- (2) コース主任及びプログラム・コーディネーターへの提供・・・全てのコース・プログラムに対して、その関係する資料一式を提供する。
- (3) 教授会及び教務委員会等関連委員会への提供・・・大学全体のカリキュラム編成に関しての検討や意思決定に際しての資料とするため、教授会及び各委員会に提供する。

実際に主任講師等へ提供した個別科目に関する資料の内容は、12頁～17頁の「提供資料サンプル」に示した通りである。

I-6-2. 評価結果の公表

さて、収集された授業評価の結果は授業改善の目的で用いることに加えて、現在では大学の社会的責務として評価結果の公表を強く求められていることから、以下のことを基本的な方針とすることとしている。

(1) 公表への基本姿勢

授業評価の結果については、基本的にできる限り広く社会に提示することが必要である。放送大学に課せられた社会的使命、教育体系全体における位置付け、そして納税者国民への説明責任等を勘案するならば、言うまでもなくそれが理の当然である。そこで、当面は以下に示す形態で公表していくこととする。

(2) 公表する内容

以下のデータに関して公表することとする。

- ① 調査の概要 : 授業評価の目的、方法、実施時期、調査対象者数、調査票等
- ② 回答者の概要 : 基本属性別に見た有効回答者数
- ③ 評点平均 : 全対象科目を総計した結果について、回答者の属性別、科目の分野別、メディア別等の各設問の評点平均値
- ④ 自由記述の概略 : 特徴的・代表的な記述

(3) 公表の方法

(2)の内容について、放送大学ホームページ等で適宜公表することを基本とする。

I-7. その他

オンライン授業科目について

2015年度から開設されたオンライン授業科目については、原則放送授業に準じた授業評価項目をアンケート調査することとしているが、次の理由により全体集計には入れず、「Ⅲ. 自由記述のまとめ」に当該科目の自由記述の集計等を参考情報として掲載するに留める。

- ・調査時期（4月5日～8月31日）が異なること
- ・放送授業と同様に調査できない項目が一部あること（例：印刷教材を作成していない）
- ・対象科目が少ない（学部8科目、大学院4科目）こと

2023 年度学生による授業評価調査票（学部）

次の科目についてお答えください。

科目名	
科目コード	

- I. この授業科目を学習して、あなたはどのような印象や感想をお持ちになりましたか。次の①～④及び(1)～(21)の項目について、あてはまる程度を4段階で評価し、4～1の番号にそれぞれ1つだけ○を付けてください。（この面が済みましたら、裏面にもお答えください。）

(注) 通信指導を提出していない方、単位認定試験を受験していない方についても、回答できる範囲でお答えください。

あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
-------	---------	------------	---------

A. 授業評価をしていただく前に、あなたの授業への取組みについてお尋ねします。

①	全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ。	4	3	2	1
②	放送授業を十分に視聴した。	4	3	2	1
③	印刷教材を熱心に学習した。	4	3	2	1
④	単位認定のための学習方法について、次の1～3のいずれか一つを選んでください。 1. ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ。 2. ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ。 3. 放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ。				

B. 以下のアンケートにお答えください。

＜授業の難易度・分量＞					
(1)	放送授業の難易度は適切だった。	4	3	2	1
(2)	放送授業の内容は適切な分量であった。	4	3	2	1
(3)	印刷教材の難易度は適切だった。	4	3	2	1
(4)	印刷教材の内容は適切な分量であった。	4	3	2	1
＜放送授業＞					
(5)	講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった。	4	3	2	1
(6)	放送授業は教材としてよくできていると感じた。	4	3	2	1
(7)	(テレビ科目についてのみお答えください) テレビの特性が十分に生かされていると感じた。 (ラジオ科目についてのみお答えください) 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた。	4	3	2	1
(8)	(テレビ科目についてのみお答えください) ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった (ラジオ科目についてのみお答えください) ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった	4	3	2	1
(9)	ゲストや聞き手によって、理解が深まった	4	3	2	1
＜印刷教材＞					
(10)	印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった。	4	3	2	1
(11)	印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった。	4	3	2	1
(12)	図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った。	4	3	2	1
(13)	印刷教材は教材としてよくできていると感じた。	4	3	2	1
＜通信指導・単位認定試験＞					
(14)	通信指導のコメントは、納得のいくものだった。	4	3	2	1
(15)	通信指導は学習内容の理解に役立った。	4	3	2	1
(16)	単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	4	3	2	1
＜全体評価＞					
(17)	授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った。	4	3	2	1
(18)	学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。	4	3	2	1

(19)	新しい知識が身につき視野が広がった。	4	3	2	1
(20)	この科目の内容を全体としてよく理解できた。	4	3	2	1
(21)	この科目の内容には全体として満足している。	4	3	2	1

提供資料サンプル【学部】

II. 次の点について、ご自由にお書きください。

(1) この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

(2) この科目を受講して、放送授業をさらによくするために改善すべきだと感じた点（例：ロケ、ゲスト、図表等の画像、演出の工夫など）をお書きください。

(3) この科目を受講して、その他のことで改善すべきだと感じた点をお書きください。

(4) この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見やご感想があれば、どんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

III. この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。（あてはまる番号に○を付けてください。）

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。
 2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。
 3. 通信指導を提出しなかった。

IV. あなたご自身についてお答えください。（あてはまる番号にそれぞれ○を付けてください。）

(1) 学生種別	〔全科履修生 新コース所属の方〕 1. 生活と福祉 2. 心理と教育 3. 社会と産業 4. 人間と文化 5. 情報 6. 自然と環境 〔全科履修生 旧専攻所属の方〕 7. 生活と福祉 8. 発達と教育 9. 社会と経済 10. 産業と技術 11. 人間の探究 12. 自然の理解 〔選科履修生・科目履修生〕 13. 選科履修生 14. 科目履修生
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
(4) 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業 5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト 9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他（ ）

提供資料サンプル【大学院】

2023 年度学生による授業評価調査票（大学院）

次の科目についてお答えください。

科目名	
科目コード	

I. この授業科目を学習して、あなたはどのような印象や感想をお持ちになりましたか。次の①～④及び(1)～(21)の項目について、あてはまる程度を4段階で評価し、4～1の番号にそれぞれ1つだけ○を付けてください。（この面が済みましたら、裏面にもお答えください。）

(注) 通信指導を提出していない方、単位認定試験を受験していない方についても、回答できる範囲でお答えください。

あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
-------	---------	------------	---------

A. 授業評価をしていただく前に、あなたの授業への取組みについてお尋ねします。

①	全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ。	4	3	2	1
②	放送授業を十分に視聴した。	4	3	2	1
③	印刷教材を熱心に学習した。	4	3	2	1
④	単位認定のための学習方法について、次の1～3のいずれか一つを選んでください。 1. ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ。 2. ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ。 3. 放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ。				

B. 以下のアンケートにお答えください。

＜授業の難易度・分量＞					
(1)	放送授業の難易度は適切だった。	4	3	2	1
(2)	放送授業の内容は適切な分量であった。	4	3	2	1
(3)	印刷教材の難易度は適切だった。	4	3	2	1
(4)	印刷教材の内容は適切な分量であった。	4	3	2	1
＜放送授業＞					
(5)	講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった。	4	3	2	1
(6)	放送授業は教材としてよくできていると感じた。	4	3	2	1
(7)	(テレビ科目についてのみお答えください) テレビの特性が十分に生かされていると感じた。 (ラジオ科目についてのみお答えください) 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた。	4	3	2	1
(8)	(テレビ科目についてのみお答えください) ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった (ラジオ科目についてのみお答えください) ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった	4	3	2	1
(9)	ゲストや聞き手によって、理解が深まった	4	3	2	1
＜印刷教材＞					
(10)	印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった。	4	3	2	1
(11)	印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった。	4	3	2	1
(12)	図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った。	4	3	2	1
(13)	印刷教材は教材としてよくできていると感じた。	4	3	2	1
＜通信指導・単位認定試験＞					
(14)	通信指導のコメントは、納得のいくものだった。	4	3	2	1
(15)	通信指導は学習内容の理解に役立った。	4	3	2	1
(16)	単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった。	4	3	2	1
＜全体評価＞					
(17)	授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った。	4	3	2	1
(18)	学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。	4	3	2	1

(19)	新しい知識が身につき視野が広がった。	4	3	2	1
(20)	この科目の内容を全体としてよく理解できた。	4	3	2	1
(21)	この科目の内容には全体として満足している。	4	3	2	1

提供資料サンプル【大学院】

II. 次の点について、ご自由にお書きください。

(1) この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

(2) この科目を受講して、放送授業をさらによくするために改善すべきだと感じた点（例：ロケ、ゲスト、図表等の画像、演出の工夫など）をお書きください。

(3) この科目を受講して、その他のことで改善すべきだと感じた点をお書きください。

(4) この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見やご感想があれば、どんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

III. この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。（あてはまる番号に○を付けてください。）

4. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。
 5. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。
 6. 通信指導を提出しなかった。

IV. あなたご自身についてお答えください。（あてはまる番号にそれぞれ○を付けてください。）

(1) 学生種別	〔修士全科生 新プログラム所属の方〕 1. 生活健康科学 2. 人間発達科学 3. 臨床心理学 4. 社会経営科学 5. 人文学 6. 情報学 7. 自然環境科学 〔修士全科生 旧プログラム所属の方〕 8. 文化情報学 9. 文化情報科学群 10. 環境システム科学群 11. 政策経営 12. 教育開発 13. 臨床理 〔修士選科生・修士科目生〕 14. 修士選科生 15. 修士科目生
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
(4) 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業 5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト 9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他（ ）